

UNDB-J ロードマップの概要

1. ロードマップ作成の経緯

- ・平成 27 年に（2015 年）11 月に「国連生物多様性の 10 年」の折り返し年を迎えるにあたり、UNDB-J のこれまでの成果と課題を中間評価としてとりまとめ。

<UNDB-J 中間評価の概要>

- ・これまで各構成団体がそれぞれの立場で生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組を推進してきており、着実な成果を上げてきた。
- ・一方で、「生物多様性」の言葉の認知度が低下しており、現状の取組を続けるだけでは愛知目標 1 に掲げられた、2020 年までに「人々が生物多様性の価値と行動を認識する」を我が国で達成することは困難。
- ・今後、セクター間の連携の強化、構成団体以外とも連携した取組の展開といった方向性のもと、ロードマップを策定し取組を進めていく。

- ・中間評価結果を踏まえて、主流化の取組をさらに加速するために、UNDB-J 及び委員の 2020 年までの目標と具体的な取組をまとめたロードマップを平成 28 年 10 月に作成。

2. ロードマップの構成

- ・本文 [P. 1~P. 10]

はじめに (UNDB-J のこれまでの取組の経緯、社会的背景と UNDB-J の役割)

I. 目指すべき社会像

II. 目指すべき社会像に向けたステップ

III. 目指すべき社会像に向けた取組の方向性

IV. 目指すべき社会像に向けた具体的な取組

- ・別紙 1 : UNDB-J の取組 [P. 13~P. 14]
- ・別紙 2 : 構成団体による取組 [P. 15~P. 36]
- ・別紙 3 : 構成団体の連携による取組 [P. 37~P. 58]
(別紙 2 の取組から構成団体内外の連携した取組を抽出したもの)
- ・参考 1 : UNDB-J 及び構成団体の取組 (別紙 1 及び別紙 2) のうち、指標を設定している取組の最新値及び目標を整理した表 [P. 61~P. 66]
- ・参考 2 : UNDB-J 及び構成団体の取組 (別紙 1 及び別紙 2) の個票
[P. 69~P. 144]

UNDB-J ロードマップのフォローアップの結果(概要)

1. フォローアップ作業

- ・各団体に個別の取組に関する、工程表（別紙 1 及び別紙 2）と取組の個票（参考 2）をリバイスして頂き、事務局でフォローアップ結果をとりまとめ。
- ・具体的なリバイス内容は、平成 29 年度の取組結果と、それを踏まえた平成 30 年以降の取組の見直し。
- ・取組の評価については、昨年度に引き続き、取組の「自己評価」欄に、「A：予定した取組を概ね実施できた」又は「C：予定した取組を実施できず」の標語、併せて簡単な自己評価コメントの記載。

2. フォローアップ結果概要

○指標については、新たに 3 団体が設定し、現時点で 40（16 団体）。

＜新たに設定した指標＞

- ・生物多様性保全を通じた地域創生（取組 1 - 4） [P. 78]
取組団体：経団連自然保護協議会
定 義：「生物多様性の本箱」の寄贈数
- ・SATOYAMA における生物多様性の保全や利用へ向けたネットワークの構築（取組 20 - 1） [P. 103]
取組団体：SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク
定 義：にじゅうまるプロジェクト宣言団体数
- ・流域連携の広域化による生態系ネットワーク形成（取組 30 - 1） [P. 126]
取組団体：国土交通省
定 義：生態系ネットワークの構築に向けた協議会の設置

○「自己評価」については、「A」評価が 67、「C」評価が 2

＜自己評価 C＞

- ・MY 行動宣言 5 つのアクションの呼びかけ（取組 0 - 1） [P. 69]
取組団体：国連生物多様性の 10 年日本委員会
自己評価：着実に数を増やしているものの、このままでは 100 万宣言への到達は厳しい状況である。
- ・UNDB-J 事業の周知啓もうの支援（取組 15 - 1） [P. 93]
取組団体：公益財団法人 日本博物館協会
自己評価：日本博物館協会の地方支部等での周知は実施できたが、個別博物館の活動への反映はできなかった。